群馬県立高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表①　令和2年度版

（様式1）

羅針盤			方策	第1回　点検・評価			第2回　点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
Ⅰ　３Ｆ精神に根ざす活力ある高高生を育成し、活気ある学校づくりを進めていますか。（全体・生徒部）	1　生活規律を確立する。	① 各学期１回挨拶週間を設定する。 ② 式典時の服装意識の向上やチャイムスタートを徹底する。 ③ ＳＮＳに関わるトラブルを無くす。	・挨拶をする習慣を身につけさせるために、全職員をあげて挨拶運動を行う。 ・TPOを弁えた行動を理解させ自発的に行動できるよう指導する。 ・他者を思いやる行動や言動を身につけさせ、ＩＴ機器の適切な利用について指導を徹底する。	B B B	B B B	・意識付けをさせる取り組みを職員・生徒全体で実施する。 ・行事などを通して身につけさせていく。 ・状況・必要に応じて指導徹底する。	A A B	A A B	・生徒と共に挨拶運動を行うことが効果的であったので、通年で定期的に実施する。 ・職員からも積極的な挨拶を心掛ける。 ・年度当初に全体指導を行い、さらに日常の生活や行事を通してその都度指導をしていく。
	2　交通安全を推進する。	④ 自転車重大事故０件。 ⑤ 職員・生徒で定期的に交通安全指導を行う。 ⑥ 駐輪場でのトラブルを無くす。	・交通ﾙｰﾙを遵守し危険予測のできる自転車運転を身につけさせる。 ・県下の動向を踏まえて、組織的な交通安全指導を行う。 ・自転車駐輪場所の遵守、自己管理の徹底を図る。	C B A	B B A	・１年に対して、ﾙｰﾙの理解を深めさせる機会をつくる。 ・状況に応じて、指導体制を拡大させる。 ・駐輪場の点検を定期的に行う。	B A A	B A A	・年度当初にルールの周知徹底を行う。 ・生徒部を中心に職員全体で組織的に指導・点検に取り組む。 ・駐輪場の点検を定期的に行う。
	3　教育相談業務を充実させる。	⑦ 毎週教育相談・生徒部会議を実施することにより、教育相談係を中心にチームとして協力し、教員一人による抱え込みを防止するとともに、生徒・保護者がＳＣを有効活用するためのマネジメントを教育相談係を中心に管理する。 ⑧ いじめの発生防止に努め、発生した場合は組織的に対応して100%解消する。	・教育相談会議・生徒部会議にて情報交換を行い、チームでの支援体制を確立するとともに、ＳＣの紹介及び面談計画の作成や外部機関への連絡など、担任・学年が必要とする支援を行う。 ・本校のいじめ防止基本方針にのっとり、生徒の人間関係の健全な構築を心がけて、いじめの未然防止に努める一方で、発生したときは組織的に迅速に解消する。	A A	A A	・定期的な会議を通して、組織的・迅速に対応している。 ・定期的なアンケートとともに職員一人一人がアンテナを高くして未然防止・早期解決に取り組む。	A A	A A	・定期的に会議を行い情報共有が出来た。 ・状況に応じた迅速な対応が、大事にまで至ることが無かった。
	4　生徒会活動を充実させる。	⑨ 定期戦７４回大会の勝利・翠巒祭の成功。 ⑩ 部活動加入率の増加・高校総体優勝。上位大会への出場数を増やす。 ⑪ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。	・生徒会総務及び実行委員等と連携を図り、意思疎通を密に図りながら、各行事の指導・助言を行う。 ・部・部顧問との連携を強化し、施設等の効率的な活用を推進しながら県内入賞種目を増やす。 ・ボランティア活動を全校で積極的に取り組めるよう、生徒会総務を中心に活動を進め、地域と連携を図っていく。	A A C	A A B	・顧問教諭の指導のもと、自覚ある取り組みが出来るよう指導する。 ・各部の連携を大切にしながら、取り組ませる。 ・地域との関わり合いの必要性の理解を深めさせる。	A B C	A B C	・適宜アドバイスを受けながらも主体的に行事に取り組ゟとが出来た。 ・思うような活動が出来ないながらも連携を取りながら取り組めた。 ・外部とのつながりをつくる機会が持てなかった。
Ⅱ　健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努めていますか。（保健環境部・事務部）	5　健康な身体と健全な精神を育成するため、自主的・積極的に心身を鍛えることができる資質・能力を養う。	⑫ 「保健だより」を毎月発行する。 ⑬ 家庭に向けての受診の呼びかけを強化する。	・「保健だより」やその他の健康関連情報を適宜発信する。 ・生徒の健康状態・定期健康診断の結果を踏まえ、必要に応じた処置や受診指導を行う。	A B	A B	休校期間を含め、ストレスを溜めやすい環境にあっても、多くの生徒が自身の健康管理に努めていた。 ・引き続き、情報を発信し、適切な指導を行いたい。	B B	B B	新型コロナ感染症予防対策を中心に、情報を適宜発信した。 ・例年以上に生徒の健康状態の把握に努めたが、今後も継続して行っていく。
	6　健康的で落ち着いた集団生活を維持するために、安全で衛生的、かつ快適な学習環境を整備する。	⑭ 保健委員による校内巡視を毎月実施する。 ⑮ 学習環境が快適であると感じている生徒が８０％以上である。	・職員及び生徒保健委員による校内巡視や環境測定を定期的に実施し、衛生的で安全な学習環境を維持する。 ・冷暖房や照明等の適切な使用の指導、及び施設・設備の点検・整美を行い、必要に応じて机や椅子などの入れ替えに対応する。	B A	B A	・校内巡視を強化する。 ・コロナ対策と併せて学習環境の整備を進めて行きたい。	B A	B A	・来年度は校内巡視を強化する。 ・消毒・除菌の確認、及び施設・設備等の不備の解消を早期に行う。
	7　校内美化の推進及びゴミの分別・減量を徹底し、リサイクル活動に取り組み、省エネエコ活動を推進する。	⑯ ゴミの分別を徹底する。	・清美委員によるゴミの分別指導をさらに充実させ、家庭内から持ち込んだ物のゴミの持ち帰りを徹底させる。	B	B	・ゴミ分別の意識の高い生徒は90%で昨年とほぼ同じであった。100%に少しでも近づくような指導の徹底を図りたい。	B	B	・新型コロナウィルス感染予防対策として、ゴミ箱を撤去したことがゴミの減量に繋がった。ゴミの分別については、粘り強く指導していく必要がある。
	8　防災意識を高める。	⑰ 訓練時の行動に関する生徒の自己評価が９０％以上である。	・防災避難訓練当日だけでなく、日頃から防災意識を高める。	B	－	・６月の訓練は延期になったが、日常生活での防災意識を涵養する方策を模索していきたい。	B	－	・今年度は避難訓練の規模を縮小して実施せざるを得なかったが、防災意識を高める指導は継続して行っていく。
Ⅲ　ＰＴＡ・同窓会・地域と連携し、本校の教育活動を発展させていますか。（広報渉外部）	9　ＰＴＡから信頼される学校を目指す。	⑱ ＰＴＡ総会の出席率が６０％を超える。 ⑲ 学年保護者会に出席率が９０％を超える。	・ＰＴＡ総会への積極的な参加を促し内容の充実･発展に努める。 ・学年保護者会への積極的な参加を促し内容の充実･発展、保護者にとって有益と思われる情報の日常的発信、保護者の声を拾うことに努める。	B －	B －	・ＰＴＡ総会では書面評決の返信が８３％あり，関心の高さが窺えた。 ・学年保護者集会（６月）は中止。	B A	B A	・来年度もコロナ禍の中でどのように開催していくかを模索する必要がある。 ・11月の学年保護者会は3密を回避して実施する。
	１０　同窓会から大いに支援される学校を目指す。	⑳ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㉑ 「先輩教えてください！」を40以上の事業で行っていただくとともに、内容の充実・発展に努める。学年保護者会に出席率が９０％を超える。	・同窓会報や理事会等で学校の現況を積極的に発信するとともに幅広く同窓会委員の声を拾うように努める。 ・創立記念講演会を充実したものにするとともに「先輩教えてください！」事業の絶えざる改善及び発展に努める。	－ A	－ A	・同窓会理事会等は未実施。 ・「先輩教えてください！」は１０月開催予定で，着々と準備が行われている。	A A	A A	・同窓会理事会等で，双方向のやりとりが行えた。 ・創立記念講演会は中止だったが，「先輩教えてください！」は事業を継続させていくような素地を作ることができた。
	１１　地域から信頼される学校を目指す。	㉒ 「翠巒セミナー」に地域の方々に5人以上参加いただくとともに、内容の充実・発展に努める。	・地域の方々に本校の存在意義を認識していただくとともに「翠巒セミナー」などの行事を地域の方々にも周知する。	B	B	・翠巒セミナーは，コロナ禍の中での開催を模索している段階である。	A	A	・翠巒セミナーは，オンラインでの開催が行えた。内容も好評であった。
	１２　情報管理を徹底した上で、情報モラル、セキュリティの意識向上を図るとともに、Ｗｅｂページを随時更新することで地域に向けて積極的に情報を発信する。	㉓ 職員の情報モラル、情報セキュリティの意識向上を図る。 ㉔ 常にＷｅｂページを最新の情報に保つ。	・機会ある毎に、モラルやセキュリティに関する情報を職員に提供する。 ・各部署に情報提供を呼びかけるとともに、行事ごとにＷｅｂページを更新する。	A B	ー B	・ＰＣは教育センターが一括管理し、セキュリティは向上した。教育センターの指示に従い職員の意識向上を図る。 ・Webページの更新を続ける。	A B	ー A	・一人一台端末に向けて情報モラル・セキュリティを徹底する。 ・行事毎にＷｅｂページを最新の状態に保ち、情報発信に努める。

群馬県立高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表①　令和2年度版

（様式1）

羅針盤			方策	第1回　点検・評価			第2回　点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
Ⅳ 質が高く、内容が豊かな「力のつく授業」を展開し、学力を向上させていますか。(教務部)	１３ 適切に授業時間を確保し、力のつく教育課程を編成し実施する。	㉕ 臨時時間割の、行事前の日程に余裕を持った提示と、入替の、年間行事予定表への記載。新学習指導要領に対応する教育課程の編成する。	・行事等における臨時時間割の編成・曜日間の授業の入替え・授業カット時のローテーションを、年間を通して計画的かつ円滑に実施し、教科主任会議を定期的に実施する。また、教科主任会議を定期的に開催する。	A	A	・職員アンケートでは授業時間確保に努力していると感じるが、強く感じているとある程度感じているで１００％であった。後期時間割で、継続して授業時間確保に努めたい。	A	A	・職員アンケートでは授業時間確保に努力していることを強く感じるが８０％、ある程度感じているが２０％であった。コロナ感染症対策の休校等、緊急事態の中でも長期休業を短縮したり、Google Foam等を活用して授業の配信、授業資料の配付を行い、対応した。
	１４　校内諸活動計画の調整を行う。	㉖ 調整ミスによる直前の計画変更や、当日の中止いった事態を起こさないこと。	・学年・ＳＳＨ部・進路部・生徒部との連絡を密にし、学校行事と諸活動を充実した意義あるものにするとともに、授業時間を適切に管理する。	A	A	・各分掌・各学年との連絡は密にしている。学校休業中・休業後も行事や諸活動が授業をさらに生かすものになるよう、適切に管理している。	A	A	・管理職・各分掌・各学年との連絡は継続して密にしている。授業時間を適切に管理している。緊急事態にも関係部署等と連絡を光にし、対応している。
	１５ 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進する。	㉗ 教科の枠を超えた教員同士の授業参観と指導方法の研修を年２回以上実施する。 ㉘ 新しいシラバスを評価する生徒が80%以上である。	・教科の枠を超えた教員同士の授業参観･指導方法の研修を推進。 ・シラバスの活用に努める。	B B	A B	・授業改善が推進されていると強く感じているとある程度感じているのアンケート結果が９８％であった。休業中の遅れを取り戻しながらも、試験範囲等では生徒の過剰な負担にならないよう配慮している。 ・シラバスは進度の応じて活用し、また、教科の枠を超えた授業参観・指導方法の研修も推進していく。	A B	B B	・授業改善については、校長のリーダーシップのもと、教科間の授業参観、及び教科を超えた授業参観を行い、授業研究を実施した。教員同士の授業参観と指導方法の研修の推進について、強く、あるいは、ある程度感じているを合わせると100%である。授業参観と生徒の授業アンケートのフィードバックを活かし、授業改善している。 ・シラバスは、内容をさらに充実させるため、来年度に向けて一部改定を行った。年度初めの休校のためシラバス通りには必ずしもいかなかったが、授業内容をカバーできるよう努めた。
	１６ 成績処理・各種教務関係書類作成等の事務を正確かつ適正に実行する。	㉙ 教務部の係ごとの打合せ回数を増やす。	・教務関係業務について見直しを進め、ミスの起こらないようデータ処理の確認を複数人で行う。	A	A	・情報課と連携し、成績処理の研修を行っている。授業時数のカウントや教科の評価についても今年度の特例の指示に従って、行っていく。	A	A	・広報渉外部と連携し、成績処理の入力から出力までのマニュアル化を行い、正確なデータ処理を行った。
Ⅴ ３年間を見通したキャリア教育を推進し、進路目標を達成した上で、自己実現を図っていますか。(進路部)	１７ 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てる。	㉚ 学習時間の増加 部で活動中：平日最低2.5時間 部活引退後：平日最低3.5時間 ㉛ １年次：志の明確化 ２年次：学部・学科の明確化と志望大学の決定 ３年次：受験大学の確定 ㉜ 志と夢、志望大・学部・学科の明確化 ㉝ 志の明確化と、夢を叶えるための具体的道筋の理解	・各授業で、学ぶ意味を共に考える。 ・進路行事・講演会の質を高め、志を育て、夢を育む。 ・各種行事への参加をうながし、社会に対する問題意識を高める。 ・各種面談をし、生徒に自信を持たせる。	A B A B	A B A A	・学ぶ意味を教え、自ら学べる生徒に変えていく。 ・コロナの影響で実施できなかった進路行事・講演会を今後何らかの形で実施していく。 ・各行時の目標の明確化と共有。 ・個別面談の重視。	A B A A	A B A A	・授業を中心とした学習スタイルの定着とシラバスの活用を推し進める。 ・コロナの状況下でも出来ることを模索していく ・キャリアリサーチを更に活用していく。 ・各種面談の実施。
	１８ 学力・進学実績の向上を達成する。	㉞ 授業観察・授業研修と生徒によるアンケートの活用 ㉟ 模試の成績向上 １年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ２年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ３年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６２ ㊱ 教師・生徒の信頼関係の向上と模試の成績向上	・教科指導力を向上させる。 ・現状分析と迅速な対応と３年間を見通した指導を行う。 ・教科・学年内での意思統一と目標を共有する。	A B A	A B A	・教師側が向上心を持ち続け、切磋琢磨し精進する。 ・教科内での方針確認を頻繁に行い、同一歩調で指導する。 ・授業力の向上と教科担当者と生徒の面談の実施。	A A A	A A A	・授業評価のフィードバックと授業研修による、指導力の向上。 ・やることの明確化と指示の徹底。 ・授業力の向上と面談による生徒理解の向上。
Ⅵ ＳＳＨ事業を効果的に運営して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を育成していますか。(ＳＳＨ部)	１９ 課題研究やクロスカリキュラム（国語力の育成を含む）は全職員体制で取り組む。	㊲ クロスカリキュラムの実践事例が16事例以上。 ㊳ 教材開発・授業検討を含めて、クロスカリキュラムの取組みをしたことのある教員が80%以上。	・クロスカリキュラムの目的や意義として課題発見･課題解決力の向上、国語力･論理的思考力の向上があることを研修等で周知する。 ・課題研究のテーマに関する助言を通常授業で行うことや2学期の教科をクロスした授業検討会もクロスカリキュラムの一例とする等、クロスカリキュラムの実践段階を示し、教材研究や授業研究も実践として含むようにする。	B B	ー	・教科をクロスした授業検討会やクロスカリキュラムの研修を実施した。 ・その取組みの成果は10月の職員アンケートで検証する予定である。	A C	A C	・３月に実施予定の授業改善研修でのクロスカリキュラムの実践を加えると,全体で19事例の実施となる。 ・クロスカリキュラムの取組みをしたことがある教員は33%となっており、今後も継続して働きかけを行う。
	２０　サイエンス・プロジェクトⅠ・Ⅱβにおいて R-PDCAサイクルを実践する中で課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を主として育成する。	㊴ 職員間で具体的に育成すべき生徒像や課題研究の指導方法を共有できている状態で課題研究Ⅰ・Ⅱβの指導に職員があたる。 ㊵ 1学年及び2学年全体で実施の課題研究終了時にR-PDCAサイクルの一連の流れを経験している生徒が70%以上である。	・1・2学年においてはルーブリックを早期に提示し、指導における評価規準を共有するだけでなく、課題研究の方法論も含めて協議の場を研修等で設けることを定例化する。 ・1学年においては、S・ＰⅠやSSHセミナーⅠ、クロスカリキュラムを活用して、R-PDCAサイクルの調査の段階で文献のまとめ方、科学的思考の表現の仕方などの国語力の育成を行い、その後、問いの設定から仮説の検証までの一連の流れを生徒には経験させる。　2学年においては、「先輩、教えてください！」担当と「修学旅行」担当と連携して、1学年の課題研究の実践を継承しながら、R-PDCAサイクルを実践する。	B B	ー ー	・ルーブリックについては、教員・生徒ともに共有をしている。また、1学年では課題研究の研修の時間を2週間あたり１コマ実施している。 ・1学年、2学年ともに課題研究を実施する体制は予定通りであるので、最終的な生徒アンケートで検証する予定である。	A A	A A	・指導方針は共有できている。 ・２学年の先輩、教えてください！を活用した課題研究や、一学年の課題研究では全体で７０％を超える班が、Ｒ－ＰＤＣＡサイクルを経験することができている。
	２１　SSHクラスにおいて、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を主として課題研究Ⅱ・Ⅲやクロスカリキュラムの活動を通して深化させる。	㊶ SSHクラスの90%が3学年の課題研究終了時にR-PDCAサイクルを一巡できている。 ㊷ 統計学や数理モデルの考え方を活用した課題研究を行う生徒が全体の60%のグループで現れている。	・2学年においては、研究スキル習得講座を実践し、そのスキルを担当者間で共有し、随時指導できる体制をつくる。 ・課題研究の実践においては、まず予備実験を早期に実践させ、研究の具体的なイメージを生徒に持たせる。また、課題研究に必要な資質能力を育成するために、上記の内容の関連事項をクロスカリキュラムでも実施する。	B B	ー ー	・現在、予備実験を実施するための体制を整えた状態であり、研究スキル講座の内容を課題研究の中で指導できるよう、さらに教員間連携を深める。 ・その成果は年度末のルーブリック評価で判断する。	A A	B A	・ＳＳＨクラスは全体では少なくとも一巡はＲ－ＰＤＣＡサイクルを回したが、再現性や妥当性に課題は残る。 ・統計学は６０％のグループは実践できたが、さらに高い割合を目指したい。
	２２ スーパーサイエンス部の活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに自己実現に向けて主体的に学ぶ態度を育成する。	㊸ SSH事業の課外活動に対してSSH事業の課外講座に定員の80%を超える生徒が参加できるようにする。	・スーパーサイエンス部の活動の案内を全生徒に提供するだけではなく、各立場（担任、教科担当、部活動）からも参加を働きかけてもらうよう依頼する。	B	B	・コロナウィルスの影響により、課外活動が制限されているが、夏期休業中にオンラインで実施した課外活動の参加数は従来よりも多い人数であった。	A	A	・新型コロナウィルスの拡大防止の影響で,実施数と募集定員が少なかったため、目標は達成できたが、情勢とともに通常の実施状況にしたい。
Ⅶ　活字に親しませて読書習慣を育むことにより、人間性を豊かにするとともに知力を向上・深化させていますか。(広報渉外部)	２３　生徒の読書習慣を早期に育成する。	㊹ 貸出冊数が２０００冊を超える。 ㊺ 月平均３００人以上が図書館を利用する。	・オリエンテーション等で読書指導を行う。 ・『群青』を活用し、読書感想文コンクールへ意欲的に取り組ませる。書庫の整理を定期的に行う。	C B	B B	・全職員による読書励行の体制づくり。 ・効率的な整理のための計画作り。	C B	B B	・生徒だけでなく職員が本を読む雰囲気を作る。 ・やれる所から逐次整理し始める。
	２４　図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	㊻ 多読者・多読クラスへの表彰。 ㊼ ビブリオバトル県大会優勝。	・諸企画への一般生徒の参加を促進する。各教科の授業内容を意識し、適宜連携する。 ・読書アンケートによる読書実態調査を行い、選書を充実させる。	B B	B B	・３密対策をしっかりと講じ、安全に行事を遂行できるよう心がける。 ・生徒だけでなく、職員のリクエストにも応じる。	A B	B B	・コロナ対応にも慣れてきたので、その環境下でできることを企画する。 ・職員にリクエストを呼びかける。
	２５　図書委員会の活動を充実させる。	㊽ 「図書館便り」の月１回発行。	・適切な貸出、返却の指導を行う。「図書館便り」及び「図書館報」を発行する。	A	A	・インフォメーションの中身の充実を図書課職員で協議する。	A	A	・生徒を個性を最大限に活かすことで、生徒主導型のインフォメーション発行を目指す。
	２６　ＳＳＨ課題研究論文の作成を支援する。	㊾ ＳＳＨ関連図書を１００冊以上収蔵する。	・ＳＳＨ関連図書の整備と活用促進を図る。	B	B	・１年次課題研究への有機的な支援。	B	B	・SSH部や１学年と司書との連携を強化し、レファレンスを充実させる。